



腎がん 2021年3月版

# Oncologist Fact Report

腎がん診療医師の治療実態・情報収集に関する  
調査レポート

株式会社メディカルレビューン

Kidney cancer '21

# 目次

	ページ
<b>1</b> 腎がんに関するレポートご提供の背景	<b>4</b>
<b>2</b> 調査概要	<b>8</b>
● 回答者属性	<b>10</b>
<b>3</b> エグゼクティブサマリー	<b>20</b>
<b>4</b> 調査結果詳細	
4-1 ● 第一部：腎がんの治療実態	
– 2014年以降に上市された薬剤の処方実態	<b>24</b>
– 処方に至るまでのカスタマージャーニー	<b>49</b>
4-2 ● 第二部：腎がんを診察する医師の情報収集実態	
– コロナ禍の情報収集実態	<b>62</b>
– 製薬会社 MR/MSL評価	<b>85</b>
– キャズム理論を参考にした腎がん診療医の医師のグループ分け	<b>100</b>

# 調査概要

情報収集パート 比較対象調査\*

調査  
対象者条件

1. 診療科が泌尿器科、腫瘍内科、一般内科・外科
2. 病床数20床以上の医療機関に勤務している
3. 直近1年以内に、腎がんの患者を1人以上診察している

1. 日常的に診療を行う医師
2. 腎がんの診療医は除く

標本抽出

Medical Tribuneウェブ医師会員より抽出

左記同様

調査手法

Webアンケート調査

左記同様

サンプル数

227ss

812ss

調査時期

2021年2月中旬～下旬

左記同様

\* P.62以降の情報収集実態パートでの比較として実施した調査（腎がんの医師を対象としたものとは別調査）

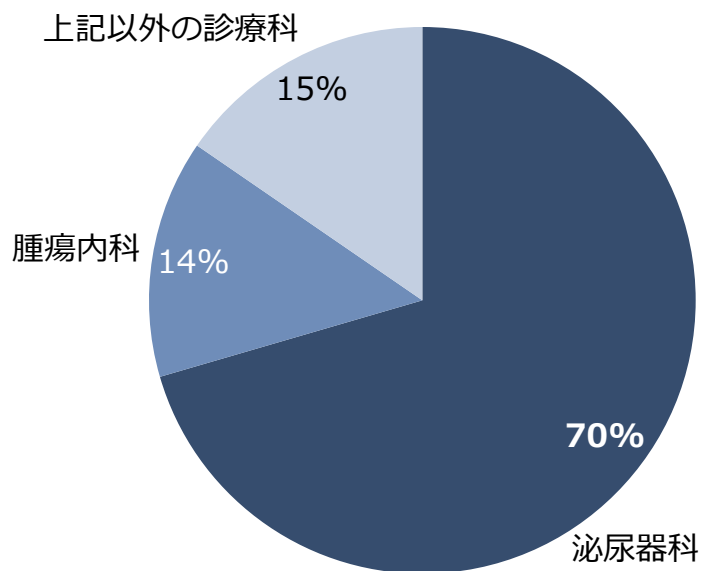
今回の調査では、2014年以降に上市された腎がんの薬剤を対象とし、過去の処方経験や、処方に至るまでの経路を聴取した。

一般名	総称名	企業名	クラス	上市年月
カボザンチニブ	カボメティクス	武田薬品工業	マルチキナーゼ阻害薬	2020年5月
ニボルマブ	オプジーボ	小野薬品工業	抗PD-1抗体	2014年9月
ペムブロリズマブ	キイトルーダ	MSD	抗PD-1抗体	2017年2月
アベルマブ	バベンチオ	メルクバイオファーマ	抗PD-L1抗体	2017年11月
イピリムマブ	ヤーボイ	ブリストル・マイヤーズ スクイブ	抗CTLA-4抗体	2015年8月

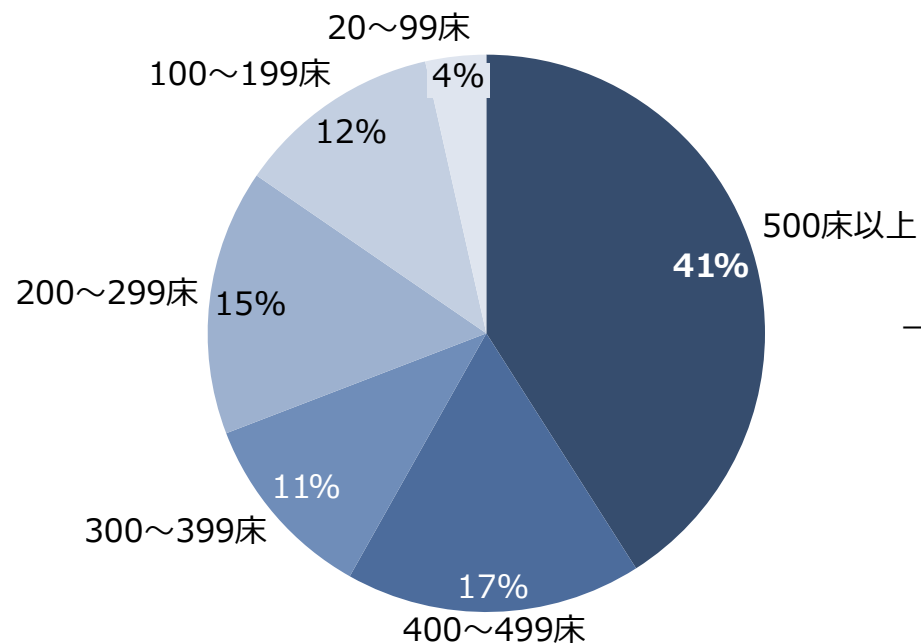
泌尿器科の医師が約7割を占め、病床数は500床以上が最も多かった。  
勤務施設は大学病院と国・公立病院がそれぞれ2-3割で、残り半数が一般病院であった。

(n=227)

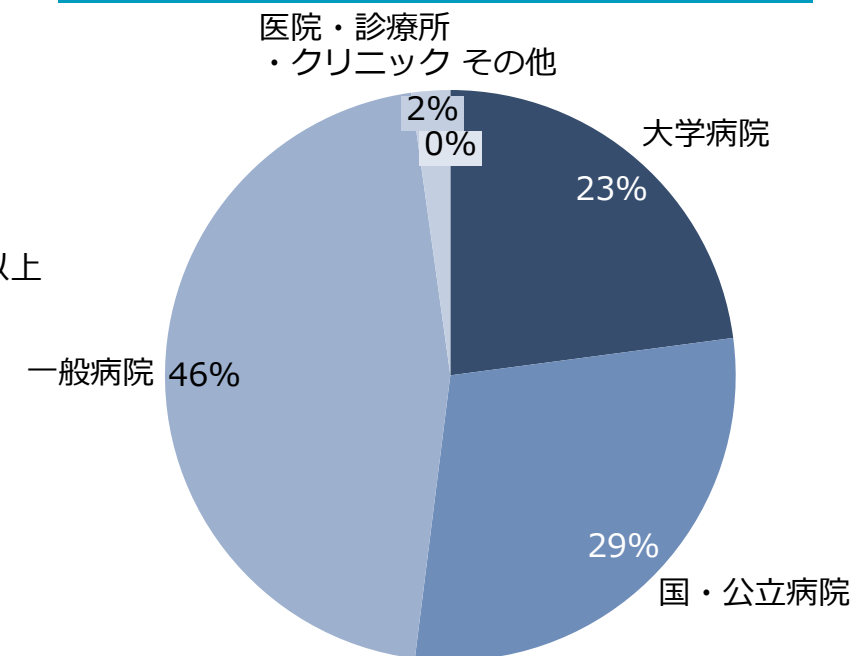
### 診療科



### 病床数



### 勤務施設



SQ1.先生の主たる診療科をお知らせください。(SA)

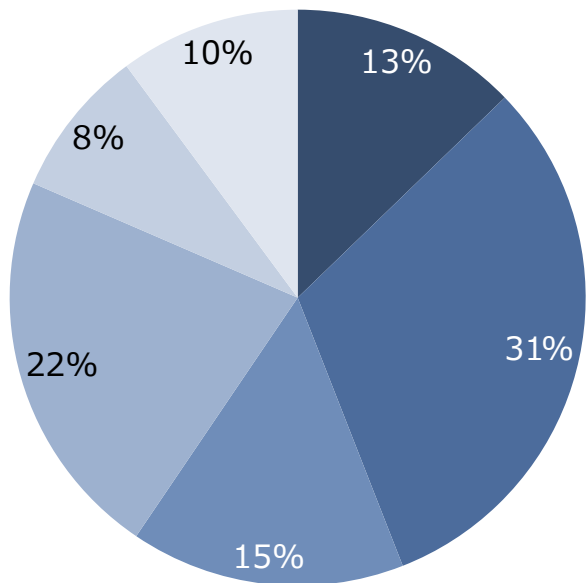
SQ2.先生が主に勤務されている施設の、病床数をお知らせください。(SA)

F1.先生の主たる勤務施設をお知らせください。(SA)

勤務先エリアは関東が最も多く約3割、次いで近畿が約2割の順だった。  
年齢は30代が、40代、50代の医師が中心でそれぞれ約3割であった。

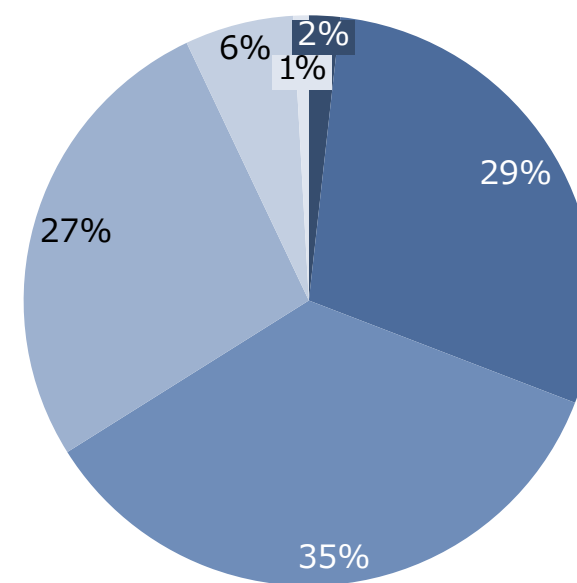
(n=227)

勤務先エリア



北海道・東北 関東 中部 近畿 中国・四国 九州

年齢

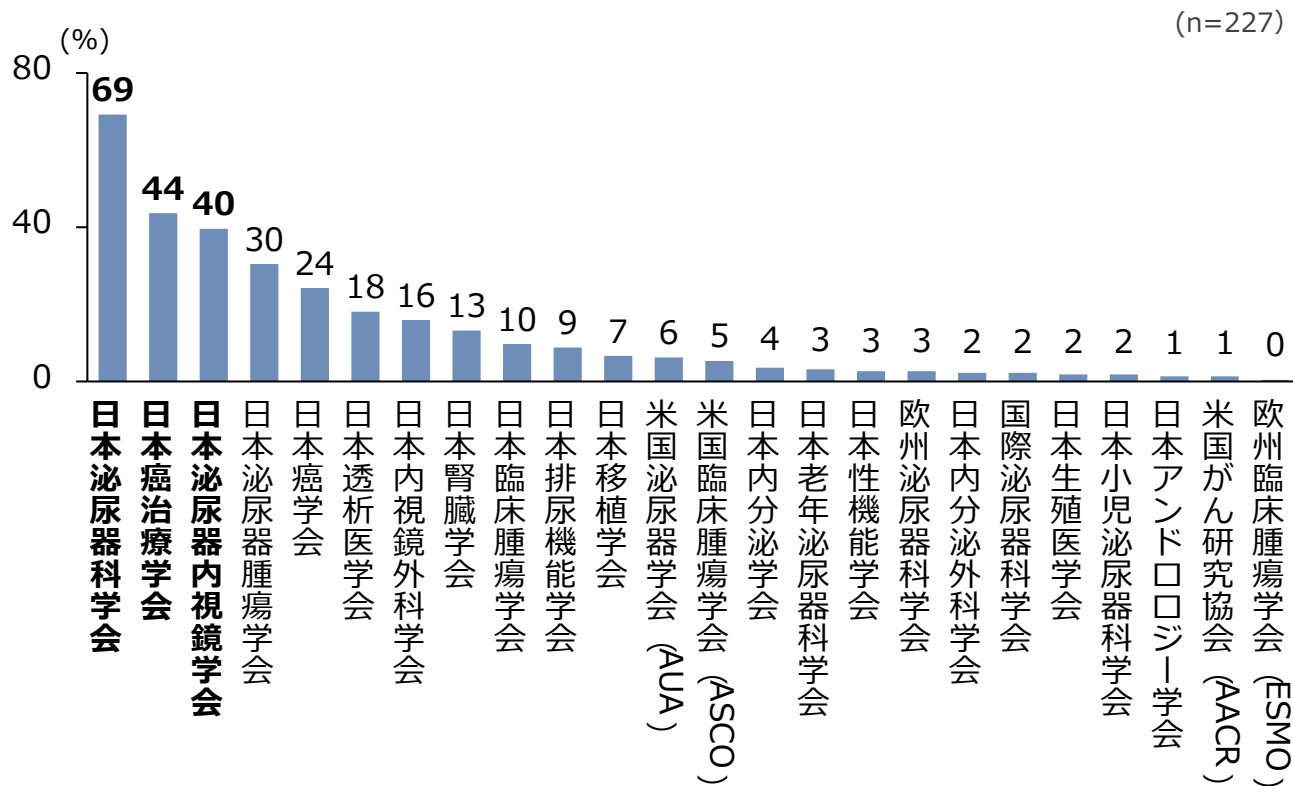


20代 30代 40代 50代 60代 70代

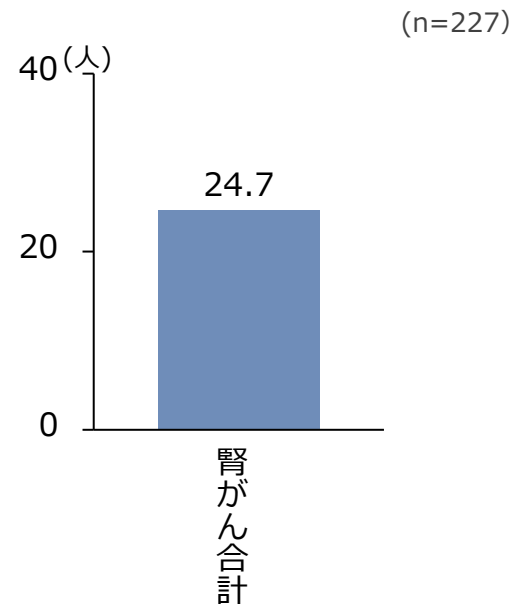
F2.先生の勤務先施設の所在地を教えてください。(SA)  
F3.先生のご年齢(年齢)を教えてください。

所属学会は各エリア日本泌尿器科学会、日本癌治療学会や日本泌尿器内視鏡学会が多かった。直近1年の患者数は平均24.7人、特に淡明細胞型腎細胞がん（低リスク）の患者が多かった。

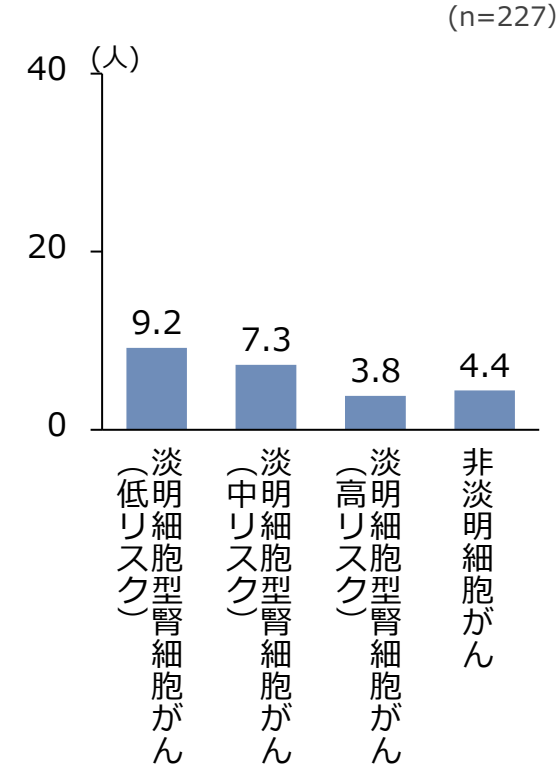
所属学会（複数回答）



直近1年患者数  
(平均値)



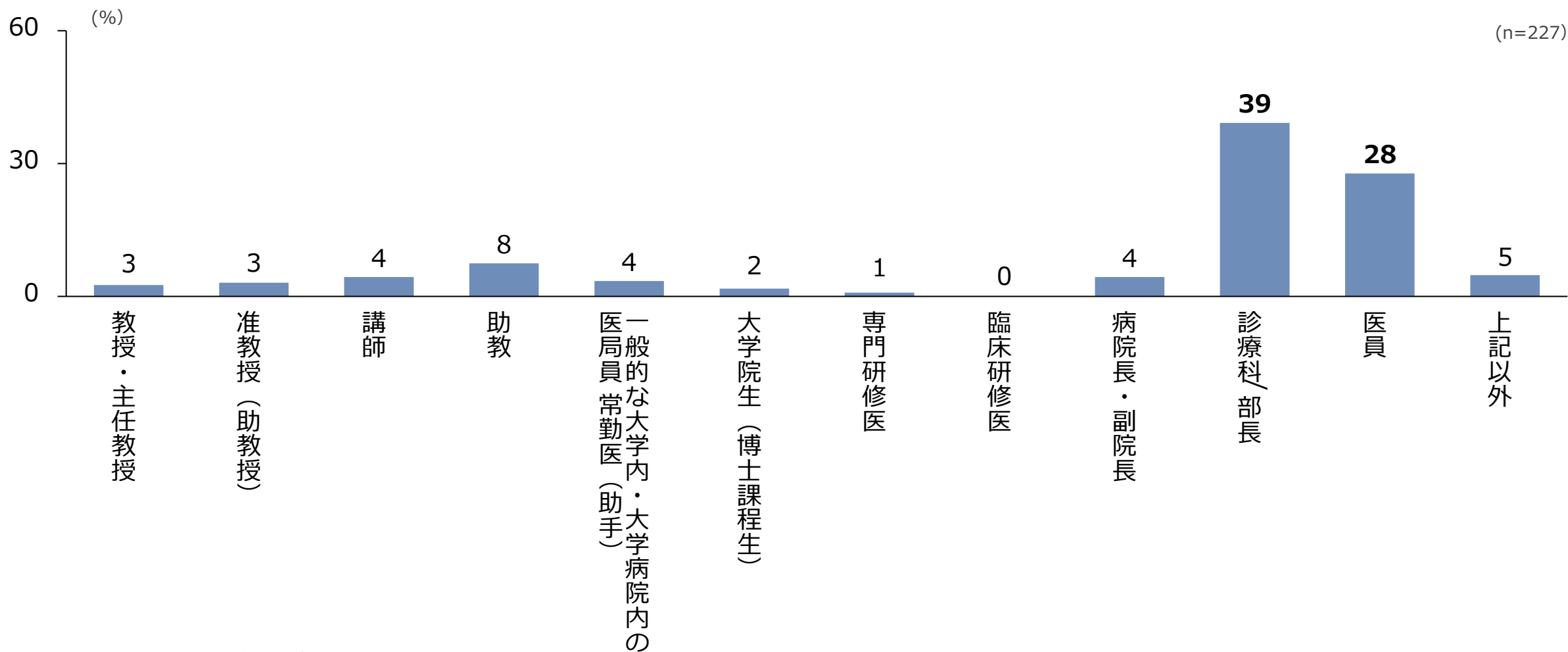
直近1年患者数  
内訳 (平均値)



F5.先生の所属学会/研究会をお知らせください。(MA)

Q1.【直近1年未満】に先生ご自身が診療した、以下の疾患の患者数を教えてください。(数値入力)

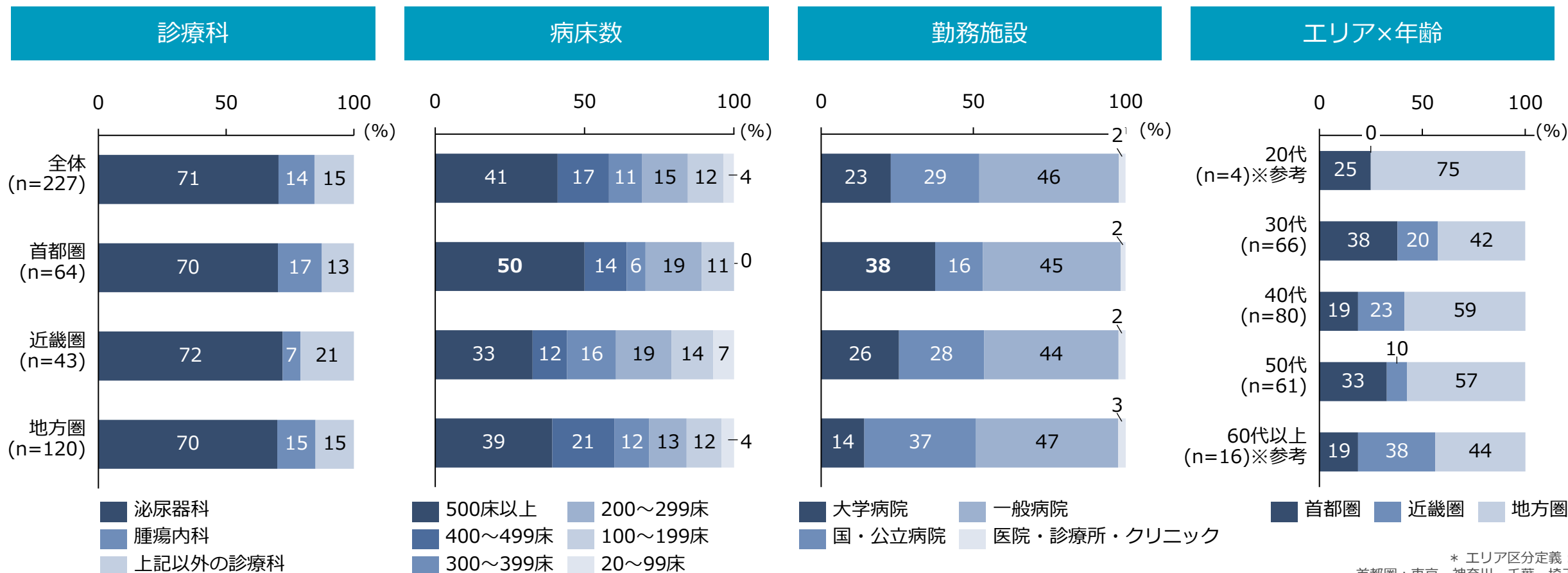
診療科/部長が全体の約4割、医員が約3割となり、この2つの役職が全体の約7割を占めた。



F4.先生の勤務施設での役職名を教えてください



エリアで診療科の構成に大きな差はなく、いずれも泌尿器科医が最も多かった。  
首都圏では、病床数は500床以上、勤務施設は大学病院での勤務医が多かった。

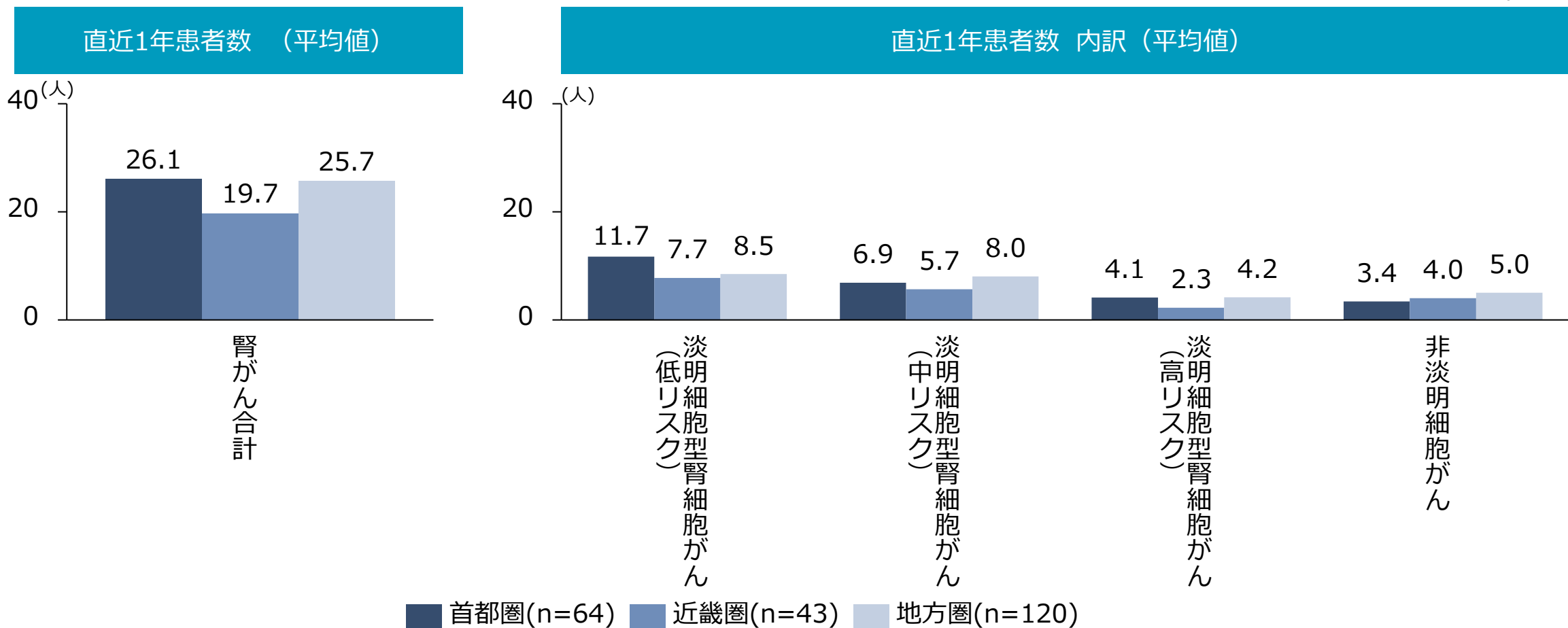


SQ1.先生の主たる診療科を教えてください / SQ2.先生が主に勤務されている施設の病床数を教えてください  
F1.先生の主たる勤務施設を教えてください / F3.先生のご年齢（年齢）を教えてください

\* エリア区分定義：  
首都圏：東京、神奈川、千葉、埼玉  
近畿圏：大阪、京都、兵庫  
地方圏：首都圏、近畿圏以外

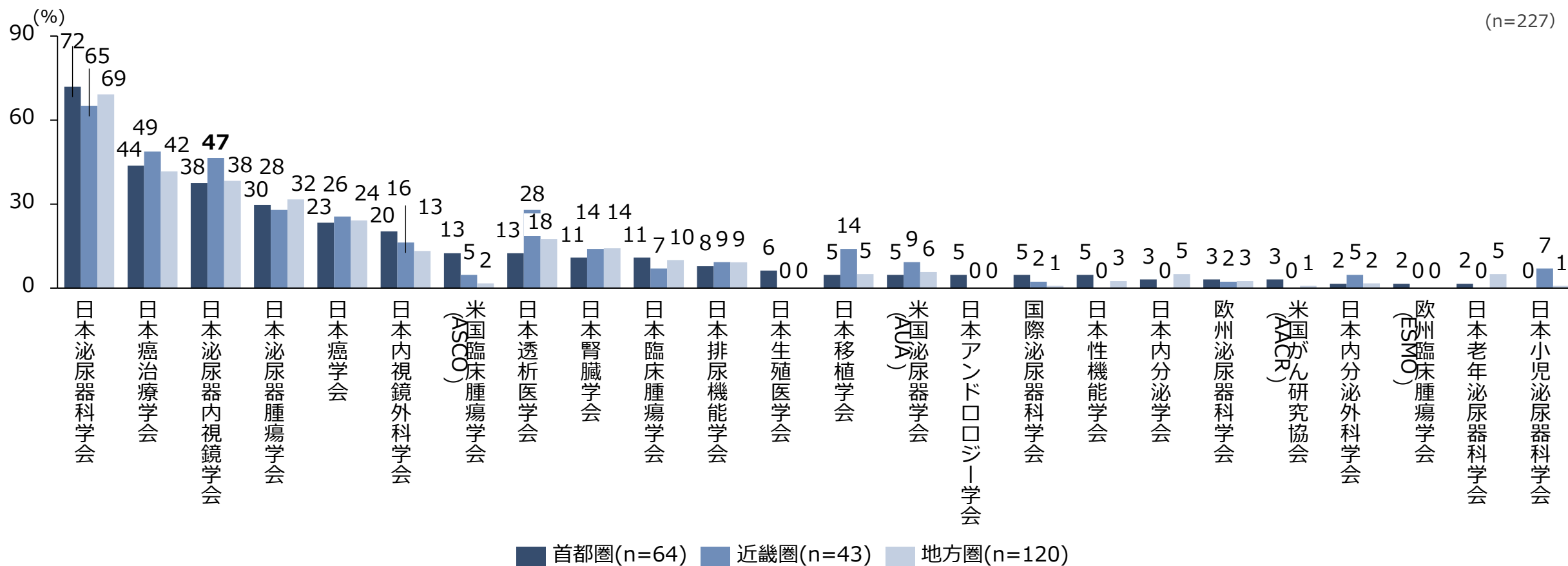
首都圏と地方圏は年間平均患者数は約26人とほぼ同数で、近畿圏は20人弱と少なかった。

(n=227)



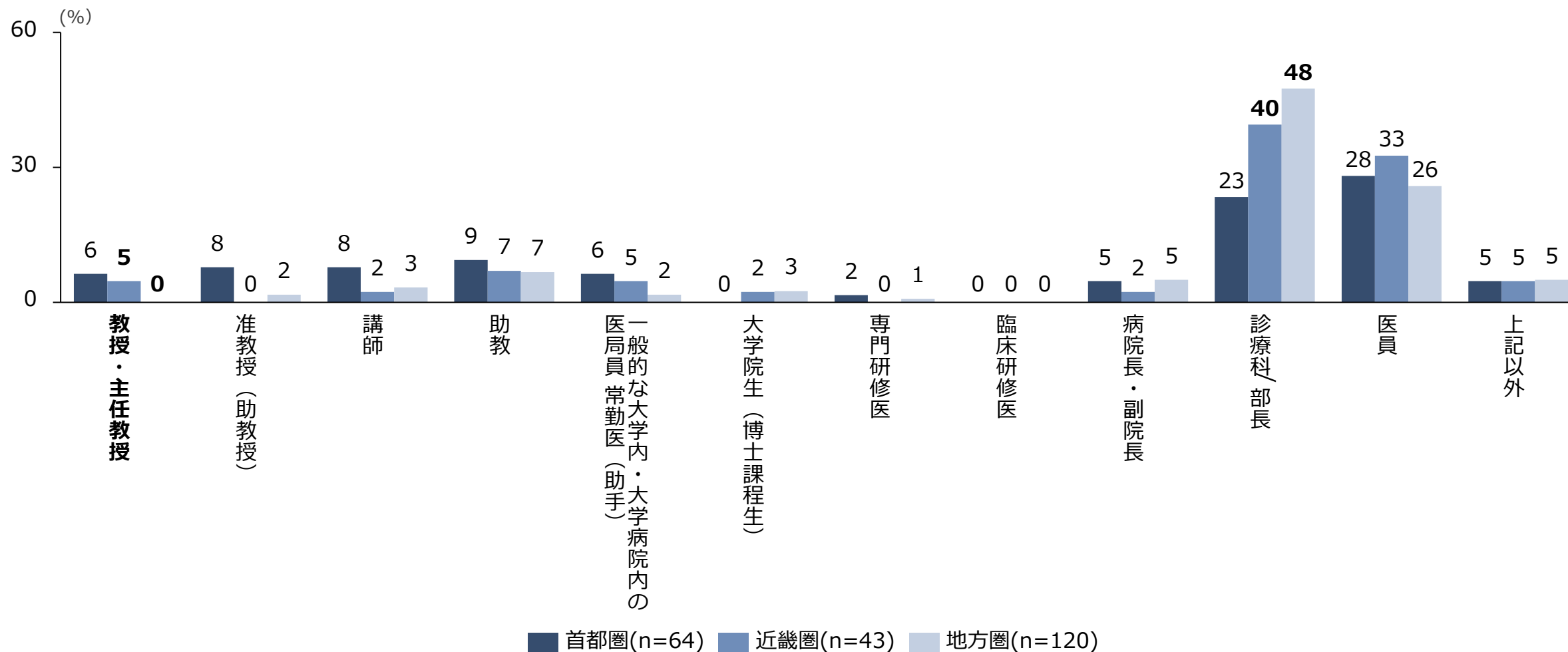
Q1. 【直近1年未満】に先生ご自身が診療した、以下の疾患の患者数を教えてください

所属学会は各エリアとも日本泌尿器学会、日本癌治療学会が多かった。  
 近畿圏では、日本泌尿器内視鏡学会の所属率が高かった。



F5.先生の所属学会/研究会を教えてください(MA)

近畿圏、地方圏は首都圏に比べて診療科/部長の割合が高かった。

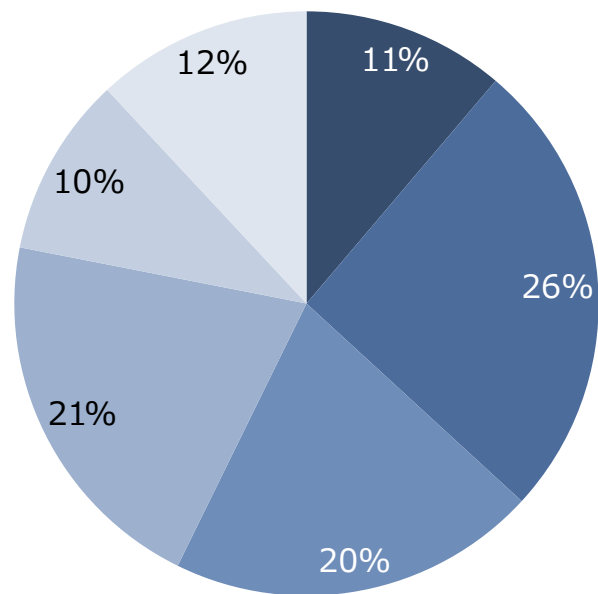


F4.先生の勤務施設での役職名を教えてください

勤務先エリアは関東、中部、近畿がそれぞれ2-3割を占めた。  
 勤務施設は一般病院が最も多く、大学病院、国・公立病院、クリニックがそれぞれ2割程度だった。  
 診療科は一般内科が最も多く、次いで小児科、循環器内科だった。

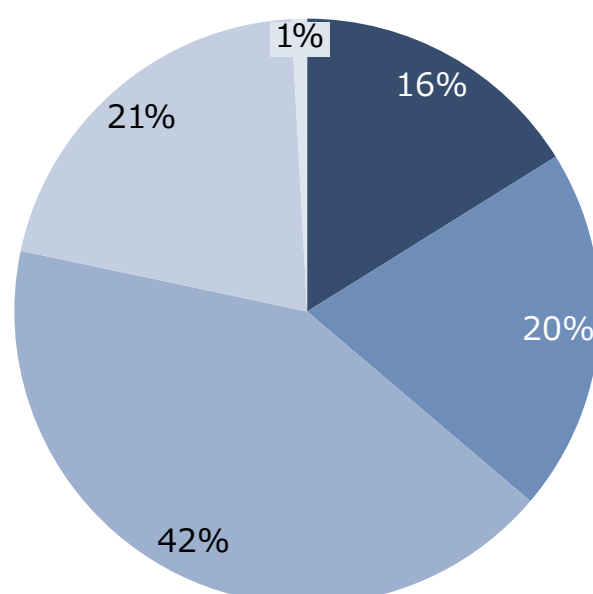
(n=812)

勤務先エリア



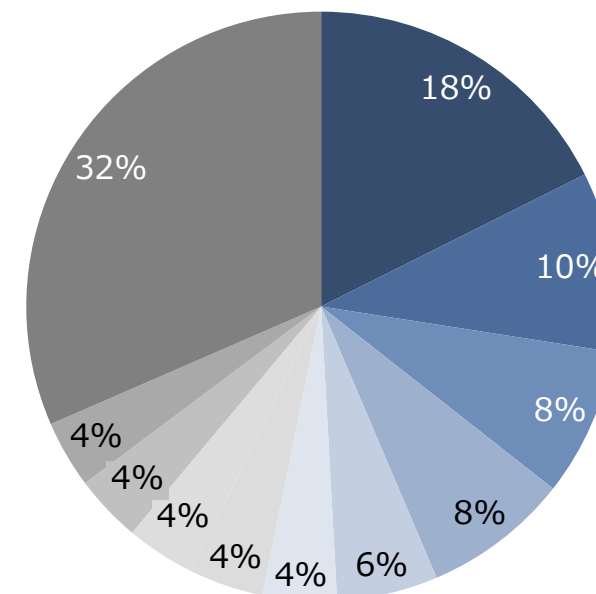
- 北海道・東北
- 関東
- 中部
- 近畿
- 中国・四国
- 九州・沖縄

勤務施設



- 大学病院
- 国・公立病院
- 一般病院
- 医院・診療所・クリニック
- その他

診療科



- 一般内科
- 小児科
- 循環器内科
- 整形外科
- 精神・神経科
- 皮膚科
- 眼科
- 麻酔科
- 放射線科
- その他
- 脳神経外科

F2.先生の勤務先施設の所在地を教えてください / F1.先生の主たる勤務施設を教えてください  
 SQ1.先生の主たる診療科を教えてください

\* P.62以降の情報収集実態パートでの比較として実施した調査（腎がんの医師を対象としたものとは別調査）



# Oncologist Fact Report

2021年 3月版



**CONFIDENTIAL**

本資料は、貴社社内関係者のみによって使用されるものとし、本資料のいかなる部分についても、株式会社メディカルトリビューンの事前の書面による承諾を得ずに、回覧・引用・複製、あるいは貴社外部に配布してはならないものとします。